

■名誉市民

氏名	認定年月
坪川洵平	昭和27年4月
天田昭次	平成15年7月

■名誉市民 坪川 洵平

つばかわ かんぺい

明治7年（1874年）に、元新発田藩士の三男として旧新発田町外ヶ輪裏（現在の城北町）に生まれ、新潟商業学校（現在の新潟商業高等学校）を卒業後、「大倉喜八郎氏のような大商人になりたい」といって上京しました。活版所の見習工を始め、さまざまな苦難を経て住友銀行の各支店に勤務した後、その手腕を買われて西成製紙株式会社の再建を成し遂げると、浪速製紙株式会社、外川製作所を創設し、実業家として成功しました。青年時代は、貧しくても努力によって偉業を成し遂げたジョージ・ピーボデーの伝記「貧児立身伝（高橋光威訳）」に感銘を受けて、人生の指針としました。

昭和3年（1928年）には御大典を記念し、郷土への恩に報い、人類の向上に寄与したいと、図書館の建設費用として1万6千円（現在の約2億円に相当）を新発田町に寄附し、昭和4年4月14日に新発田町立図書館が開館しました。

また、図書館を文化の本拠としてより良いまちづくりを進めるため、図書館の敷地内に図書会館（後の公民館）を建設する費用として7万円（現在の約8億7千万円に相当）を新発田町に寄附し、昭和14年4月25日に開館しました。

更には、私財を投げ打って町商工会への奨励金などの援助、昭和10年の新発田大火の見舞い、新発田工芸女学校（現在の新発田中央高等学校）への資金援助、新発田町役場の建設に10万円（現在の約12億5千万円に相当）の無利子融資、生活困窮者や苦学生への援助などを行いました。昭和27年4月には、新発田市で初となる新発田市名誉市民の称号が授与されました。昭和33年11月7日逝去（享年85歳）。告別式は、図書会館において市葬として執り行われました。

市立歴史図書館入口には、坪川氏の思いを刻んだ箴言碑が、館内には胸像が展示されています。



坪川 洵平

■名誉市民 天田 昭次

あまた あきつぐ

●至芸の世界を歩み続けた刀剣作家

昭和2年に旧本田村（豊浦地区）にて出生。小学校卒業とともに、父と同じ作刀の世界へ入ります。そして、鎌倉時代の刀を追求するうちに、材料である鉄から作り出すことを決意。以後、現代刀界で最も権威のある展覧会で、最高賞である「正宗賞」を3度も受賞したほか、数々の名刀を製作してきました。平成9年には、重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されるとともに、豊浦町名誉町民の称号を授与。平成15年に豊浦町と新発田市が合併し、新発田市名誉市民の称号を授与されました。



天田 昭次

●プロフィール

昭和2年 旧本田村（豊浦地区）に生まれる
 昭和15年 上京し、日本刀鍛錬伝習所に入門
 昭和27年 日米講和条約締結を記念した講和記念刀を製作
 昭和30年 第1回作刀技術発表会で優秀賞を受賞
 昭和34年 現状の作刀に疑問を感じ、自家製鉄の本格的な研究に入る
 昭和43年 月岡の地に自宅、鍛刀所、製鉄所を移転
 昭和48年 伊勢神宮式年遷宮御神宝太刀を製作奉仕
 昭和49年 横綱 北の湖の土俵入り太刀を製作
 昭和52年 第13回新作名刀展で正宗賞を受賞
 昭和53年 豊浦町無形文化財・新潟県無形文化財に指定
 昭和60年 第21回新作名刀展で2度目の正宗賞を受賞
 平成2年 全日本刀匠会理事長に就任
 平成4年 伊勢神宮式年遷宮御神宝太刀を製作奉仕

平成7年 財団法人日本美術刀剣保存協会理事に就任
 平成8年 新作刀展覧会で3度目の正宗賞を受賞
 平成9年 重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定。豊浦町名誉町民の称号授与
 平成11年 勲四等旭日小綬章を受章
 平成15年 豊浦町閉町記念刀を製作。新発田市名誉市民の称号授与
 平成16年 新発田城復元完成記念太刀を製作
 平成17年 伊勢神宮式年遷宮御神宝太刀を製作奉仕。新潟県災害復興祈念剣「不動丸」を製作
 平成18年 秋篠宮悠仁親王殿下御守刀謹作
 平成23年 公益財団法人日本刀文化振興協会理事長就任
 平成25年 伊勢神宮式年遷宮御神宝太刀を製作奉仕。6月26日逝去（満85歳）

■新発田市歌～虹の橋をわたって～ (平成29年制定)

たか たかし/作詞 若草 恵/作曲・編曲 芹 洋子/唄

雨があがった空に 日が射して
七色の虹が ひろがる
ひとは生まれてくるまちをえらべない
まちも住むひとをえらべない
ただがあるんだよ
ひとりひとりの未来が...

ふれあう心 よりそう笑顔
好きです新発田 陽だまりのまち
今日もやさしい 風が吹く

城の石垣 今に語りつぐ
このまちの遠い 記憶を
時は流れるままひともまちなみも
話すことばさえかえてゆく
ただがあるんだよ
守りつづけるものが...

希望のひかり 信じる勇氣
好きです新発田 母がいるまち
今日もやさしい 風が吹く

サクラ吹雪よ 花たちよ
大空高く 舞いあがれ
あの虹の橋をわたって

サクラ吹雪よ 花たちよ
大空高く 舞いあがれ
あの虹の橋をわたって
大空高く 舞いあがれ...
大空高く 舞いあがれ...

♩=94 (Int.)

ど ある ん だ よ ひ と り ひ と り の み ら い の
が ー ふ れ あ う こ こ ろ よ り
の い し が き い ま に か た り つ ぐ
な
こ
な
い ろ の に じ が ひ ろ が る ひ と
の ま ち の と お い き お く を と き
は う ま れ て く る ま ち を え ら べ な い ま ち
は な が れ る ま ま ひ と も ま ち な み も は な
く ー サ ク ラ よ ぶ き よ ほ
な ー た ち よ お お ぞ ら ー た か く ま



■ 歴代市長

	氏名	就任	退任
初	高橋 平治郎	S22. 4. 5	S26. 4. 4
2	近 勇次	S26. 4. 25	S30. 4. 30
3	原 常一郎	S30. 5. 1	S34. 4. 29
4	〃	S34. 4. 30	S37. 2. 2
5	大沼 鉄男	S37. 3. 2	S41. 12. 2
6	〃	S41. 12. 2	S45. 11. 30
7	富樫 会	S45. 12. 1	S49. 11. 30
8	〃	S49. 12. 1	S53. 11. 30
9	近 寅彦	S53. 12. 1	S57. 11. 30
10	〃	S57. 12. 1	S61. 11. 30
11	〃	S61. 12. 1	H2. 11. 30
12	〃	H2. 12. 1	H6. 11. 30
13	〃	H6. 12. 1	H10. 11. 30
14	片山 吉忠	H10. 12. 1	H14. 11. 30
15	〃	H14. 12. 1	H18. 11. 30
16	〃	H18. 12. 1	H22. 11. 30
17	二階堂 馨	H22. 12. 1	H26. 11. 30
18	〃	H26. 12. 1	H30. 11. 30
19	〃	H30. 12. 1	R4. 11. 30
20	〃	R4. 12. 1	

■ 歴代助役

	氏名	就任	退任
初	古田島 徳平	S22. 6. 24	S26. 5. 19
2	塚野 俊郎	S26. 6. 4	S28. 6. 29
3	野沢 順吉	S28. 10. 1	S32. 9. 30
3	伊花 才二	S30. 7. 5	S34. 6. 30
4	野沢 順吉	S32. 10. 1	S36. 9. 30
4	長谷川 弘	S35. 10. 1	S39. 9. 30
5	野沢 順吉	S36. 10. 1	S40. 9. 30
6	〃	S40. 10. 1	S44. 9. 30
7	池田 政男	S44. 12. 3	S45. 12. 31
8	五十嵐 喜一郎	S46. 2. 17	S50. 2. 16
9	〃	S50. 2. 17	S54. 2. 16
10	佐藤 留蔵	S54. 3. 24	S58. 3. 23
11	藤倉 庄平	S58. 6. 22	S62. 6. 21
12	〃	S62. 6. 22	H3. 6. 21
13	〃	H3. 6. 22	H7. 6. 21
14	遠藤 謙二	H7. 9. 7	H10. 10. 19
15	清田 幸雄	H10. 12. 8	H14. 12. 7
16	大山 康一	H15. 2. 7	H19. 2. 6
17	〃	H19. 2. 7	H19. 3. 31

■ 歴代収入役

	氏名	就任	退任
初	佐藤 克太郎	S22. 9. 8	S26. 9. 7
2	原 常一郎	S28. 9. 7	S30. 4. 1
3	二戸 章三	S35. 10. 1	S39. 9. 30
4	〃	S39. 10. 1	S43. 9. 30
5	〃	S43. 10. 1	S47. 9. 30
6	五十嵐 憲三	S47. 10. 1	S51. 9. 30
7	〃	S51. 10. 1	S54. 2. 28
8	菅原 孝一	S54. 9. 13	S58. 9. 12
9	〃	S58. 9. 13	S62. 9. 12
10	長谷川 成之	S62. 9. 13	H3. 9. 12
11	〃	H3. 9. 13	H7. 3. 31
12	池田 毅	H7. 4. 1	H11. 3. 31
13	宮坂 啓象	H11. 7. 1	H15. 6. 30
14	藤田 栄三郎	H15. 7. 1	H17. 6. 30
15	芹野 秀夫	H17. 9. 2	H19. 5. 31

※収入役制度は平成19年3月31日で廃止されたが、任期中に限り従前のおおりに在職。

■ 歴代副市長

	氏名	就任	退任
初	大山 康一	H19. 4. 1	H22. 10. 20
〃	小川 弘	H19. 10. 1	H22. 8. 31
2	大山 康一	H23. 2. 24	H25. 3. 7
3	下妻 勇	H25. 4. 1	H29. 3. 31
4	〃	H29. 4. 1	R3. 3. 31
5	伊藤 純一	R3. 4. 1	

※助役は、平成19年4月1日から名称を副市長とした。

※平成19年10月1日から、副市長の定数を2人とした。

■ 歴代教育長

	氏名	就任	退任
初	酒井 環	S27. 11. 1	S31. 9. 30
2	肥田野 文治	S31. 10. 4	S34. 6. 29
3	栗林 米造	S34. 6. 30	S41. 3. 31
4	石山 平四郎	S41. 4. 1	S46. 12. 18
5	吉田 久平	S47. 1. 1	S47. 7. 31
6	渡辺 義平	S47. 8. 1	S54. 3. 31
7	高橋 恂三郎	S54. 4. 1	S60. 3. 4
8	本間 不二夫	S60. 4. 1	S62. 3. 31
9	渡辺 秀晃	S62. 4. 1	H6. 3. 31
10	鈴木 明夫	H6. 4. 2	H11. 3. 31
11	白井 茂夫	H11. 4. 1	H15. 6. 30
12	大滝 昇	H15. 7. 1	H22. 11. 30
13	塚野 純一	H22. 12. 27	H25. 2. 28
14	大山 康一	H25. 3. 8	H27. 3. 31

新教育委員会制度施行後
【平成27年4月改正】

	氏名	就任	退任
初	大山 康一	H27. 4. 1	H30. 3. 31
2	山田 亮一	H30. 4. 1	H30. 10. 17
3	工藤 ひとし	H31. 4. 1	

■ 歴代議長

	氏名	就任	退任
初	長谷川 納蔵	S22. 5. 18	S23. 9. 13
2	杉山 要平	S23. 9. 13	S26. 4. 29
3	〃	S26. 5. 26	S30. 4. 15
4	柳川 亥吉	S30. 5. 25	S32. 5. 20
5	〃	S32. 5. 21	S34. 4. 15
6	島田 不二男	S34. 5. 18	S36. 5. 26
7	大沼 金蔵	S36. 5. 29	S37. 5. 26
8	島田 不二男	S37. 5. 26	S38. 4. 29
9	〃	S38. 5. 19	S40. 6. 23
10	柳川 亥吉	S40. 6. 23	S42. 4. 30
11	〃	S42. 5. 17	S44. 6. 20
12	佐藤 精一	S44. 6. 20	S46. 4. 30
13	〃	S46. 5. 17	S50. 4. 30
14	〃	S50. 5. 16	S52. 6. 30
15	〃	S52. 6. 30	S54. 4. 30
16	石山 正八	S54. 6. 18	S56. 9. 28
17	佐藤 精一	S56. 9. 28	S58. 4. 30
18	井岡 博男	S58. 5. 30	S62. 4. 30
19	〃	S62. 5. 27	H3. 4. 30
20	二階堂 馨	H3. 5. 21	H7. 4. 30
21	宮崎 光衛	H7. 5. 22	H9. 11. 21
22	小川 弘	H9. 11. 21	H11. 4. 30
23	五十嵐 孝	H11. 5. 21	H13. 12. 3
24	牛腸 栄	H13. 12. 3	H15. 4. 30
25	二階堂 馨	H15. 5. 21	H17. 3. 28
26	小川 弘	H17. 3. 28	H19. 4. 30
27	二階堂 馨	H19. 5. 22	H21. 6. 12
28	〃	H21. 6. 12	H22. 6. 28
29	巖 昭夫	H22. 6. 28	H23. 4. 30
30	宮野 昭平	H23. 5. 24	H25. 6. 11
31	斎藤 明	H25. 6. 11	H26. 1. 27
32	小川 徹	H26. 2. 19	H27. 4. 30
33	〃	H27. 5. 25	H29. 6. 14
34	比企 広正	H29. 6. 14	H31. 4. 30
35	〃	R1. 5. 24	R3. 5. 21
36	若月 学	R3. 5. 21	R5. 4. 30
37	宮崎 光夫	R5. 5. 26	

■ 歴代副議長

	氏名	就任	退任
初	杉山 要平	S22. 5. 10	S23. 9. 13
2	田村 泰蔵	S23. 9. 13	S26. 4. 2
3	山ノ井 三郎	S26. 5. 26	S30. 4. 29
4	伊花 才二	S30. 5. 25	S30. 7. 4
5	渋谷 勇太郎	S30. 8. 24	S32. 5. 20
6	宮村 鶴吉	S32. 5. 20	S34. 4. 29
7	武藤 毅	S34. 5. 18	S36. 5. 29
8	水戸部 秀康	S36. 5. 29	S37. 5. 26
9	斎藤 新一郎	S37. 5. 26	S38. 4. 29
10	佐藤 精一	S38. 5. 19	S40. 6. 23
11	〃	S40. 6. 23	S42. 4. 30
12	小川 与之吉	S42. 5. 17	S44. 6. 20
13	斎藤 新一郎	S44. 6. 20	S46. 4. 30
14	長尾 銀作	S46. 5. 17	S47. 6. 27
15	土田 諦道	S47. 6. 27	S50. 4. 30
16	佐藤 鉄蔵	S50. 5. 16	S52. 6. 30
17	速水 克夫	S52. 6. 30	S54. 4. 30
18	湯浅 長夫	S54. 6. 18	S56. 9. 28
19	倉島 和四蔵	S56. 9. 28	S58. 4. 30
20	近藤 久	S58. 5. 30	S62. 4. 30

	氏名	就任	退任
21	中山 喜七郎	S62. 5. 27	H1. 3. 30
22	川崎 長之助	H1. 4. 13	H3. 4. 30
23	村山 義一	H3. 5. 21	H5. 5. 31
24	相沢 佐喜男	H5. 6. 7	H7. 4. 30
25	牛腸 栄	H7. 5. 22	H9. 12. 18
26	巖 昭夫	H9. 12. 18	H11. 4. 30
27	竹内 三男	H11. 5. 21	H14. 2. 22
28	斎藤 正衛	H14. 3. 1	H15. 4. 30
29	本間 道治	H15. 5. 21	H17. 5. 18
30	宮野 昭平	H17. 5. 18	H19. 4. 30
31	渋谷 武衛	H19. 5. 22	H21. 6. 12
32	星野 幸雄	H21. 6. 12	H23. 4. 30
33	斎藤 明	H23. 5. 24	H25. 6. 11
34	青木 泰俊	H25. 6. 11	H27. 4. 30
35	比企 広正	H27. 5. 25	H29. 6. 14
36	佐藤 真澄	H29. 6. 14	H31. 4. 30
37	渡邊 喜夫	R1. 5. 24	R3. 5. 21
38	中村 功	R3. 5. 21	R5. 4. 30
39	小坂 博司	R5. 5. 26	



■新発田市のあゆみ

昭和22年	1月	市制施行	昭和55年	3月	加治、菅谷中学校閉校
昭和23年	3月	市消防署開庁	4月	市民文化会館・公民館完成。七葉中学校閉校	
	4月	五つの新制高校発足	昭和56年	1月	豪雪により人的被害などが発生
昭和24年	5月	市役所職階制による給与体系実施	3月	下中山、菅谷、石川小学校閉校	
昭和25年	3月	市公民館設立	4月	統合「菅谷小学校」開校	
	8月	市内初の保育園開園。市営球場完成	6月	梅雨前線豪雨発生、建物被害など被害総額35億9千万円	
昭和26年	2月	国立新発田病院火災発生、第1病棟全焼	8月	日韓スポーツ交流で訪韓団を派遣	
昭和27年	4月	坪川洵平氏名誉市民となる	10月	皇太子、同妃両殿下を迎え「市民の幸せを考える集い」開催	
	7月	梅雨前線豪雨発生、市内612町歩冠水	昭和57年	4月	二市北蒲原郡総合健康開発センター、市保健センター完成
昭和29年	1月	市消防署に火災専用電話119開設	昭和58年	4月	新発田商工高校が南高校と商業高校に分離。青少年健全育成センターオープン
	4月	「市政だより」第1号発行	10月	厚生省のヘルスパイオニアタウン事業の指定を受ける	
	9月	市防犯組合結成	11月	市公民館が優良公民館活動で文部大臣賞受賞	
昭和30年	3月	五十公野、松浦、米倉、赤谷、川東、菅谷の6村を合併	昭和59年	1月	豪雪により建物被害などが発生
昭和31年	3月	加治川村の一部を合併。国鉄白新線開通	3月	国鉄赤谷線廃止。中野賞制定	
	4月	第一中学校火災発生、一部焼失	4月	タウンホームのぞみ工房、のぞみの家完成	
	7月	梅雨前線豪雨発生、市内420町歩冠水	5月	農業研修センター完成。五十公野公園野外活動施設オープン	
昭和32年	6月	新発田城表門、隅櫓、国の重要文化財に指定	8月	駅地下道完成	
昭和33年	7月	集中豪雨発生	10月	カルチャーセンターオープン。市健康づくり推進協議会が内閣総理大臣賞受賞	
	9月	台風21号発生	11月	新発田川放水路着工。新市立図書館オープン。新発田食品工業団地完成	
	11月	名誉市民坪川洵平氏逝去（享年85歳）、市葬が営まれる	昭和60年	1月	豪雪発生、人的・建物被害など被害総額6億5千万円
昭和34年	4月	佐々木村を合併。猿橋小学校閉校。新発田城解体復元工事始まる	4月	特別養護老人ホーム「二の丸」完成	
	5月	図書館開館30周年記念式典開催	昭和62年	3月	荒川小学校、松浦小学校閉校
	8月	御免町小学校新校舎完成	4月	統合「松浦小学校」開校	
昭和35年	4月	新市域に置かれた支所が廃止され出張所に。加治橋完成	5月	常陸宮、同妃両殿下を迎え、当市で「全国野鳥保護のつどい前夜祭」開催	
	9月	台風18号発生	7月	露谷虹児記念館オープン。市の花にアヤマ、市の木にサクラを制定	
昭和36年	8月	集中豪雨発生、市内128町歩冠水	昭和63年	4月	東豊小学校閉校。東豊児童クラブ開設
	9月	精神薄弱児施設いじみの学園完成、第2室戸台風発生	11月	水道局庁舎完成。市水道事業創設60周年記念式典	
昭和37年	4月	市内初の信号機設置。江口（五十公野）で大火、12戸全焼	平成元年	4月	山林火災発生、金山地内から出火し民有林・国有林を22ha焼失
	5月	市立体育館完成	7月	図書館開館60周年記念式典開催。五十公野公園あやめ園が「手作り郷土賞」を受賞。五十公野公園が「日本都市公園100選」に認定。建設省が加治川を桜づつみモデル事業に認定	
昭和38年	2月	豪雪による被害総額1億円に	9月	新新バイパス全線開通	
昭和39年	3月	本丸中学校火災発生、特別教室焼失	10月	五十公野サン・スポーツランドオープン	
	4月	市役所庁舎全焼。国道7号新発田バイパス完成。町名変更	11月	大韓民国議政府市と友好都市協定を締結	
	6月	新潟国体で当市も会場に。天皇陛下幸啓。新潟地震発生	平成 2年	2月	村尻遺跡出土品ヒト形土器、壺形土器が県の有形文化財・考古資料に指定
昭和40年	11月	市役所新庁舎完成	3月	五十公野森林館完成	
昭和41年	7月	水害発生、人的・建物被害など被害総額54億9千万円	6月	旧県知事公舎記念館オープン	
昭和42年	8月	羽越水害発生	11月	しばた台輪が天皇陛下御即位記念日本まつりパレードに参加。韓国議政府市へ第1回職員研修派遣	
昭和43年	2月	豪雪発生、市内交通機関などが麻痺	12月	第1回市民表彰	
	10月	広域ごみ焼却場、岡田に完成	平成 3年	3月	新発田東デイサービスセンター完成。清水谷庭園が県文化財記念物・名勝に指定
	11月	勤労青少年ホーム完成	4月	敬和学園大学開校。ボランティアセンターオープン	
昭和44年	12月	足軽長屋、国の重要文化財に指定	7月	住吉コミュニティセンターオープン	
昭和46年	5月	板山放牧場完成	9月	印鑑登録証（カード）による印鑑証明書の発行開始	
	6月	集中豪雨発生、建物被害など被害総額7億円	10月	総合健康開発センターが厚生大臣表彰を受賞	
昭和48年	10月	新発田市休日診療所を開設（新発田市役所内）	11月	石川県加賀市と友好都市協定調印。市社会福祉協議会が厚生大臣賞を受賞	
	11月	内の倉ダム竣工			
昭和49年	10月	加治川治水ダム竣工			
昭和50年	4月	猿橋児童クラブ開設			
昭和51年	4月	御免町児童クラブ開設			
昭和52年	4月	こうぬま児童クラブ開設			
	7月	市民プール完成			
昭和53年	4月	住吉児童クラブ開設			
	6月	梅雨前線豪雨発生、建物被害など被害総額12億円			












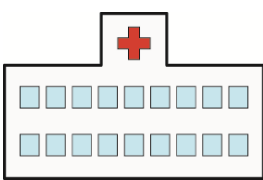
平成 4年	4月	新潟職業能力開発短期大学校開校。五十公野公園野球場オープン。五十公野児童クラブ開設	平成11年	2月	新発田育英会学生寮竣工
	5月	ふるさと会館（現在の五十公野コミュニティセンター）オープン		4月	天ノ原保育園開園。学校給食川東共同調理場オープン。市情報公開条例、市個人情報保護条例施行。市都市マスタープラン完成。佐々木コミュニティセンターオープン。中井デイサービスセンターオープン。佐々木児童クラブ開設
平成 5年	8月	蔭谷虹児記念館が公共建築賞優秀賞受賞		5月	知的障害者授産施設「希望の家」竣工
	1月	高齢者レクリエーションセンターオープン		7月	市下水道事業審議会スタート
	2月	市消防団が日本消防協会から特別表彰「まとい」受賞		8月	旧市宮野球場用地と新発田駐屯地営前訓練場用地一部交換。武家屋敷を市の文化財に指定
	4月	訪問看護ステーション、在宅介護支援センターオープン。市立図書館で本の貸出し等に電算機利用開始。県植樹祭が五十公野公園で開催		10月	韓国議政府市との友好都市協定10周年記念事業開催
	6月	滝谷森林公園一部オープン		11月	家庭ごみ収集有料化スタート。しばた台輪が天皇陛下御即位10周年奉祝祝賀パレードに参加
	9月	加治川児童館開設	平成12年	1月	新発田温泉「あやめの湯」入場者50万人達成
	10月	生涯学習センターオープン。廃棄物減量等推進員を設置。厚生省の「健康文化と快適な暮らしのまち創造プラン事業」に指定		2月	県立新発田病院整備促進期成同盟会設立
	12月	勤労者福祉センター（サン・ワークしばた）オープン		3月	「新発田市中心市街地活性化基本計画」策定。御免町幼稚園新園舎完成。新発田川放水路完成。市勤労青少年ホーム閉館
平成 6年	4月	新発田西デイサービスセンターオープン		4月	豊浦保育園開園。新発田南デイサービスセンターオープン。七葉児童クラブ開設
	8月	新発田温泉「あやめの湯」オープン		5月	市行政改革推進本部設置
平成 7年	1月	松浦小学校が全国交通安全優良校として表彰		6月	粗大ごみ戸別収集・白色トレイの店頭回収開始。市自治会連合会設立
	4月	新発田北デイサービスセンターオープン。新潟県北部地震発生、県指定文化財市島邸住宅「湖月閣」倒壊		8月	広島平和記念式典に中学生3人派遣。大相撲新発田場所開催。住吉町花と緑の会が緑化推進運動功労者として内閣総理大臣表彰を受ける
	6月	アメリカ合衆国アイオワ州オレンジシティと姉妹都市協定調印。赤谷サイクリングロードが全国街路事業コンクールで特別賞受賞		9月	市まちづくり総合計画基本構想完成。市防災フェスティバル2000開催
	7月	自転車等放置防止及び自転車等駐車場条例施行		10月	環境美化推進条例施行
	10月	在宅福祉事業功労で厚生大臣表彰を受ける		11月	羽越本線新幹線直通促進新潟地区期成同盟会設立
平成 8年	11月	新発田川放水路暫定通水	平成13年	2月	市長への手紙、市政懇談会開始。市行政改革推進計画策定
	1月	住民参加によるまちづくり部門で自治大臣表彰を受ける		3月	市まちづくり総合計画基本計画・実施計画策定。市農村マスタープラン策定。猿橋小学校新校舎竣工
	2月	韓国議政府市と第1回友好都市市政発展研究会開催		4月	市総合健康福祉センター「いきいき館」オープン。環境基本条例制定。「新潟2001年宇宙の旅」に3台の金魚台輪が参加
	3月	正保越後国絵図、古絵図3点が県有形文化財古文書に指定		6月	旧赤谷線「歴史探勝の道」全線開通。古タイヤ火災発生、真野原外地内から出火し松林47ha、古タイヤ約2万2千本焼失
	7月	滝谷森林公園宿泊棟オープン		7月	市民ギャラリーオープン
	11月	二市北蒲はいかいシルバーSOSネットワーク通信開始		10月	米倉ふれあいロードパーク「ねむの木広場」オープン
	12月	新発田女性会議設立		11月	県営大規模湛水防除事業新発田Ⅰ、Ⅱ期地区県営かんがい排水事業五十公野地区竣工。市環境率先実行計画「エコシフト21」策定。諏訪神社火災発生、本殿及び市指定文化財などが焼失
平成 9年	3月	人権擁護都市宣言	平成14年	4月	うすが森保育園開園。御幸町ふれあいコミュニティセンターオープン。新発田中央公園幼児ゾーンオープン
	4月	菅谷・紫雲寺保育園開園。隣保館オープン		5月	日本海東北自動車道「新潟空港IC～聖籠新発田IC」区間開通
	6月	サン・ビレッジしばたオープン。市制施行50周年記念式典開催。第4回世界・第40回全日本花いっぱい大会開催。第10回全国あやめサミット開催。防災安全都市宣言、核兵器廃絶平和都市宣言		7月	五十公野公園陸上競技場「グリーンスタジアムしばた」竣工
	10月	エフエムしばた開局。坂ノ沢遺跡から石斧やたて穴住居、石器群発掘		9月	新発田市・豊浦町合併協議会設置
	11月	市保健自治会が自治大臣表彰を受ける		10月	高速道路日本海東北自動車道「聖籠新発田IC～中条IC」区間開通。新発田市公共下水道供用開始
平成 10年	3月	「コモタウン」オープン	平成15年	1月	「新発田駅前・中心市街地活性化地区移動円滑化基本構想」策定
	4月	学校給食北共同調理場オープン。市庁舎時間禁煙実施。新発田広域クリーンセンターオープン。安兵衛の松2世植樹			
	5月	忠臣蔵サミット開催。城下町伝統文化展開催			
	6月	「城下町新発田400年のあゆみ」発刊。市緑・花振興協会が内閣総理大臣表彰を受ける			
	7月	市防災協会設立			
	8月	市水道事業創設70周年記念「水道フェスティバル」開催。8.4水害発生、建物被害など被害総額7億2千万円。野外劇「この豊かなる大地の讃歌」公演			
	9月	新発田藩初代藩主ブロンズ像建立			
	10月	全国「花嫁人形」合唱コンクール、全国「花嫁」手紙コンクール開催			
	11月	蔭谷虹児記念館が「公共建築百選」に			

	2月	県立新発田病院、リウマチセンター、附属看護専門学校の基本設計概要発表。市ファミリーサポートセンター開設	10月	新発田市コミュニティバス運行開始。新発田城址公園が「日本の歴史公園100選」に選ばれる。	
	3月	新発田市環境基本計画策定	11月	県立新発田病院が移転開院。「まちの駅よろず新発田学研究センター」オープン。市街地循環バス実証実験運行開始	
	4月	精神障害者授産施設「夢工房しば草」オープン。新発田城三階櫓・辰巳櫓上棟式、上棟祭開催。豊町ふれあいコミュニティセンター、猿橋コミュニティセンターオープン	平成19年	1月	第1回健康づくり大学開催。市所蔵アートコレクション展開催
	7月	豊浦町と合併。名球会“あなたのまちに名球会がやってくる”新発田大会開催		3月	「新発田市観光振興基本計画」策定
	8月	清水園庭園・五十公野御茶屋庭園国指定名勝に指定		4月	キッズ陽だまり園開園。「市民参画と協働による新発田市まちづくり基本条例」施行。地域交流センター・紫雲の郷館指定管理者制度導入。幼保一元化施設「西園すこやか園」オープン
	9月	新発田温泉あやめの湯足湯オープン		5月	「新発田市ハザードマップ」作成。養護老人ホーム「あやめ寮」移転オープン
平成16年	12月	新発田市・紫雲寺町・加治川村合併協議会設置。新発田駅前土地区画整理事業開始		6月	「新発田あんしんメール」配信サービス開始。緊急告知FMラジオ装置配備開始。紫雲の郷入館者100万人達成
	2月	県立新発田病院移転建築工事着工		7月	新発田市コミュニティバスに有料広告掲載開始。「食のアスバラ横丁めめぐり」実施。中越沖地震発生
	3月	新発田南バイパス開通		8月	市ホームページに有料広告掲載開始。食のまちづくり・しばたりレートーク開催。新発田駅前広場オープン
	4月	川東保育園開園。地域交流センター（きやり館）オープン。新発田城址公園リニューアルオープン。滝谷森林公園対岸デイキャンプ場オープン。紫雲寺児童館開設		10月	市立図書館の運営業務を一部委託。石崎家住宅「石泉荘」が登録有形文化財に認定
	5月	まちづくり出前講座開始		11月	しばたっ子わくわく通学合宿開始
	6月	新発田城三階櫓・辰巳櫓完成記念事業「城下町しばた文化の祭典」開催		12月	市都市マスタープラン改訂
	7月	新発田城三階櫓・辰巳櫓開場式開催。新発田市菓「あやめ城・三階櫓」販売開始。新発田城三階櫓・辰巳櫓完成記念事業「ページェントしばた2004～道学共創～」開催。「しばたっ子台輪」完成・お披露目パレード。7.13新潟・福島豪雨災害発生、道路・農林水産施設被害など被害総額約1,850万円	平成20年	2月	竹ヶ花地区の蚕取橋・神明裏遺跡から丸木梯子・剣形木製品など出土。新発田温泉あやめの湯入館100万人達成
	10月	中越地震発生		3月	「新発田市景観計画」策定。市農村マスタープラン改訂。加治川・中川・新金塚小学校閉校。三の丸・清水谷・南保育園閉園。中倉保育所閉所。新新バイパス新発田IC立体化（上り線）開通
平成17年	11月	商工会議所分館「まちの駅」オープン		4月	優の森・三の丸保育園開園。加治川・中川・新金塚小学校が統合し「加治川小学校」が開校。「観光イベントバス」運行開始。市島邸が市直営に移管
	1月	新発田城三階櫓・辰巳櫓完成記念事業「城下町しばた全国雑煮合戦」開催		5月	月岡温泉月姫広場に足湯完成
	3月	杉山義法氏追悼公演「よろけ養安」公演		6月	電子申請システム稼働。公共施設予約システム稼働
	4月	地域交流センター屋内ホール（あおり館）オープン。市立図書館が「こども読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受賞		7月	「新発田市景観計画」施行
	5月	紫雲寺町・加治川村と合併。紫雲寺町よりアメリカ合衆国ミズーリ州セントジェームズ市、長野県須坂市、加治川村より韓国全谷邑との友好都市・姉妹都市協定を継承。紫雲寺・加治川児童クラブ開設		9月	全国瞬時警報システム（J-ALERT）運用開始。市水道事業創設80周年記念イベント開催（ボトルドウォーター「源泉滾々」配布）
	6月	米倉有機資源センター完成。水害発生、8地区314世帯1,182人に避難勧告		10月	「復活 新発田 十二斎市」開催
	7月	板山有機資源センター完成	平成21年	1月	「新発田市食の循環によるまちづくり条例」施行
	10月	「景観行政団体」に認定		3月	「新発田市地域公共交通総合連携計画」策定。「新発田市水道ビジョン」策定
	12月	新潟大停電発生、下越地方を中心に65万戸が停電		4月	「新発田市議会基本条例」施行。水道料金・下水道使用料のコンビニ納付開始。水道水源保護地域を指定。ふるさと会館閉館。「県立新発田病院跡地整備構想」策定。「新発田市政における法令遵守の推進等に関する条例」施行。藤谷虹児記念館が市直営に移管。あそびの森すみよし保育園開園。川東児童クラブ開設
平成18年	2月	NPO法人新発田市総合型地域スポーツクラブ発足。新発田城が「日本100名城」に選ばれる		7月	「新発田市中心市街地活性化推進条例」施行。新発田城三階櫓・辰巳櫓復元5周年記念「三階櫓見学会」開催
	3月	城下町しばたもちもち会発表会。西新発田五十公野線の一部（本町～東新町）開通			
	4月	新発田市まちづくり総合計画・中期基本計画、新発田市行政改革推進計画（後期計画）策定。寺町たまり駅、中央町たまり駅、諏訪町たまり駅オープン。地域包括支援センター（中央・東・西・南・北の5か所）設置。有機の里交流センターオープン。菅谷コミュニティセンターオープン。学校給食西共同調理場完成。松浦・豊浦児童クラブ開設			
	7月	「しばたっ子食農給食特区」に認定。豪雨発生、新荒川地区の8世帯25人に避難勧告			
	9月	「広報しばた」有料広告掲載開始			

	9月	市内全小・中学校で「日本語」授業開始。新新バイパス新発田IC立体化（下り線）開通。第64回国民体育大会「トキめき新潟国体」開催、市内ではゴルフ、サッカー、ラグビーフットボールが開催され、29日に高円宮妃殿下が五十公野陸上競技場にお成り		11月	新発田駅 駅東地下通路の改修工事が完了
	10月	5日に秋篠宮、同妃両殿下がカリオン文化館（刀剣伝承館）にお成り。第9回全国障害者スポーツ大会「トキめき新潟大会」（市内ではサッカー）開催、10日に皇太子殿下が新発田中央公園多目的広場に行啓	平成25年	2月	新発田市出身の赤穂義士・堀部安兵衛を顕彰する市民の会「武庸会」が設立100周年を迎える
	11月	「天皇陛下御即位20年をお祝いする国民祭典・第1部奉祝まつり」に上町・下町・四ノ町・両町の「しばた台輪」4台が参加。市の部署の一部が「市役所別館」に移転		3月	国道290号荒町バイパスが開通。「新発田市新エネルギービジョン」策定
	12月	「新発田市食の循環によるまちづくり推進計画」策定		5月	「新発田市地域福祉（活動）計画」策定。新発田市農業研修センターが新発田市農業サポートセンターにリニューアル
平成22年	2月	「新発田市民 暮らしの便利帳」発行		6月	村尻遺跡出土品が国重要文化財に指定。新発田市名誉市民 重要無形文化財保持者である、刀匠・天田昭次氏が逝去
	4月	ななは保育園開園。総務課内に「新庁舎建設室」開設。東豊第2・外ヶ輪・猿橋第2・御免町第2児童クラブ開設。加治川コミュニティセンター（旧新金塚小学校）開設		8月	「新発田市名誉市民 重要無形文化財保持者故 天田昭次先生お別れの会」を執り行う。併せて、遺作展を開催
	5月	紫雲寺中学校竣工。林道新発田南部線開通。「議会報告会」を市内10か所で初開催		9月	「新発田市中心市街地活性化基本計画」全部改訂。「新発田駅前複合施設整備基本方針」策定。子育て応援カード事業「しばたし子育てきらきらカード」発行。農業サポート人材バンク開始
	6月	「食の循環によるまちづくり」の大使に、俳優の永島敏行さんが決定		10月	「住民票の写し等の第三者交付に係る本人通知制度」開始。新しい松塚漁港が開港、松塚漁港まつり開催
	8月	ロボット格闘技大会「ロボワン in 新発田」開催	平成26年	11月	義士親善友好都市交流会議（忠臣蔵サミット）開催。しばた軽トラ市初開催。新発田駅リニューアル。「新発田市差別のない人権が尊重されるまちづくり条例」施行
	9月	「食の循環しばた モッタイナイ運動」開始。「新発田市核兵器廃絶平和推進基本条例」施行		1月	赤穂四十七士木像47躯及び長徳寺義士堂1棟、附「義士堂 額」、天井書画、堀部安兵衛銅像、「萬山不重」額を市の有形文化財歴史資料に指定。山草荷遺跡出土弥生土器19点を市の有形文化財考古資料に指定。旧会津街道松並木を市の天然記念物に指定。新発田ブランド認証審査会開催、10品が認証される
	10月	「しばたのおかず ～郷土の食材と料理～」発刊		2月	清水園内に「堀部安兵衛伝承館」開館
平成23年	11月	「新発田市新庁舎建設基本構想」策定		3月	市道五十公野バイパス線開通。川東・竹俣・車野小学校閉校。佐々木保育園閉園
	1月	「市長等の給料の特例に関する条例」施行		4月	川東・竹俣・車野小学校が統合し「川東小学校」が開校。七葉コミュニティセンターオープン。川東コミュニティバス運行開始。旧県知事公舎記念館が食の迎賓館にリニューアル。しばたん観光バス運行開始。し尿処理施設「新発田クリーンアップいなほ」稼働開始。あやめこども園開園
	2月	TBSドラマ「3年B組 金八先生」の収録が新発田城などで行われる		5月	陸上自衛隊新発田駐屯地「白壁兵舎伝史料館」リニューアルオープン。月岡温泉開湯百年祭開催。「手湯の杜」「プレミアムSAKE蔵」オープン
	3月	東日本大震災発生、カルチャーセンター及びサン・ビレッジしばたを一次避難所として開設。新発田幼稚園開園。財団法人「新発田市まちづくり振興公社」解散		6月	市民公開地理情報システム運用開始。あやめサミットin新発田開催。旧竹俣小学校の校舎を活用した「県立村上特別支援学級いじみの分校竹俣校」が開校
	4月	新発田市観光協会設立。市民相談センター開設。救急診療所・休日救急歯科診療所が移転。あい保育園・まごころ保育園しばた開園。「新発田市新庁舎建設に関する全世帯アンケート」実施。一次避難所を閉鎖し、月岡温泉の旅館・ホテル11施設を二次避難所として開設		7月	新発田城三階櫓・辰巳櫓復元10周年記念「三階櫓見学会」開催
	5月	はつらつ仕事館開設		8月	新庁舎建設工事開始。新発田市に合った人口減少問題対策を検討する「未来創造プロジェクトチーム」が始動。映画「ストロボ・エッジ」の撮影が県立新発田高等学校などで行われる
	6月	「新発田市民のきずなを深め『いのち』を守る条例」施行		10月	新発田駅前複合施設建設工事開始。「天田昭次記念館」オープン
	10月	市立図書館の運営業務を直営化	平成27年	2月	子育てきらきらメール配信開始
	11月	市内在住のバンド「桑名シオンwithパタヤビーチボーイズ」による市応援ソング「Smile」が完成・CD化		3月	赤谷小学校閉校、米倉小学校に統合
平成24年	12月	「新発田市新庁舎建設基本計画」策定。「紫雲閣」が市指定有形文化財・建造物に指定		4月	認定こども園わかば幼稚園開園。住吉第2児童クラブ開設。「新発田市男女共同参画推進条例」施行
	4月	「新発田市まちづくり総合計画」基本構想・基本計画・実施計画を策定。市街地循環バスが本格運行を開始。名称は、市民公募の結果「あやめバス」に決定		5月	パリの日本文化会館で「露谷虹児展」開催。「新発田市漁業共同利用施設（おさかな市場）」オープン
	5月	「新発田市民 暮らしの便利帳2012」発行			
	7月	「新発田市暴力団排除条例」施行。「韓日ハンマウム（絆）フェスティバル～東日本大震災市避難者激励のつどい～NANTA公演」を駐新潟大韓民国総領事館とともに開催			
	8月	救急医療キットの配布開始。県立旧新発田病院解体工事に伴う掘削作業中に、新発田城二ノ丸の土橋石垣を発見			
	9月	羽越本線が開通100周年を迎える			

	7月	乳児園はるにれ・めばえ保育園開園	7月	「新発田市立歴史図書館」オープン。新発田駅前複合施設（イクネスしばた）「10代の居場所カフェ」事業開始	
	9月	「新発田市・胎内市・聖籠町定住自立圏構想」において、新発田市が中心市宣言を行う			
	10月	新発田市人口ビジョン・新発田魅力創造戦略を策定、パルクids陽だまり園開園	10月	エンジェルkids陽だまり園開園。「日韓美術交流展」開催。新発田駅前複合施設（イクネスしばた）で来館者が100万人達成	
平成28年	12月	「認知症カフェ よ・らっしえ」オープン	平成31年	3月	「健康長寿アクティブプラン」策定
	3月	新発田市まちづくり総合計画を改定、紫雲寺支所を健康プラザしろうんじ内に移転、「まちの駅」閉館。新発田市食の循環によるまちづくり推進計画改訂		4月	「松浦屋内多目的運動場」オープン
	4月	「アイネスしばた」開園。あおばこども園・認定こども園東幼稚園・認定こども園優の森保育園・認定こども園あそびの森すみよし保育園開園。新発田市環境基本計画（第2次）策定。「新発田市水道局料金センター」設置。御免町第3児童クラブ開設。「新生しばた記念事業～新たな100年に向けて～」を開始	令和元年	7月	新潟食料農業大学と「包括的連携に関する協定」を締結
	7月	「新発田駅前複合施設（イクネスしばた）」オープン。イクネスしばた内に旧図書館が移転、中央図書館オープン。「青少年宿泊施設（あかたにの家）」オープン。都市計画道路「西新発田五十公野線」の中環状道路部全通	10月	第34回国民文化祭・にいがた2019、第19回全国障害者芸術文化祭にいがた大会で当市は将棋フェスティバルを開催	
	9月	川東コミュニティセンターオープン、新発田市農業サポートセンターを同コミュニティセンター内に移転	11月	天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典奉祝まつりに「新発田台輪」参加	
	10月	「新発田市・胎内市・聖籠町定住自立圏形成協定」を締結	令和 2年	3月	新発田市まちづくり総合計画・新発田魅力創造戦略・新発田市行政改革大綱を改定、新発田市・胎内市・聖籠町定住自立圏共生ビジョンを改定
	11月	「しばた・ときめき体操」DVD完成。新発田市農業サポートセンター取壊し		4月	西園幼稚園・西園保育園・ひまわり学園閉園
平成29年	12月	旧市庁舎閉庁	4月	「健康長寿アクティブ交流センター」・「ふれあい福祉センター」オープン。私立西園保育園・ひまわり学園・認定こども園ルンビニ保育園開園	
	1月	「ヨリネスしばた」開庁。エフエムしばた「ヨリネス街角スタジオ」オープン	令和 3年	3月	日本郵便(株)新発田市内郵便局と「包括連携に関する協定」を締結。北越後農業協同組合グループと「包括連携に関する協定」を締結。菅谷・中浦・天王・荒橋・本田小学校閉校。加治川幼稚園閉園。ボランティアセンターの「新発田市地域づくり支援センター」をヨリネスしばたへ統合。新発田市食の循環によるまちづくり推進計画改訂
	2月	新発田市歌「虹の橋をわたって」が完成。新潟職業能力開発短期大学校と「包括的連携に関する協定」を締結	4月	「新発田市歯と口腔の健康づくり推進条例」施行。菅谷小学校と七葉小学校が統合。中浦・天王・荒橋・本田小学校が統合し、「豊浦小学校」が開校。認定こども園百華保育園開園。松浦地区デマンド（予約型）乗合タクシー「まつうら号」本格運行開始	
	3月	「新発田市・胎内市・聖籠町定住自立圏共生ビジョン」を策定、「新発田市都市計画マスタープラン」改定、新発田市立地適正化計画策定。新発田市地域公共交通網形成計画策定。都市計画道路「五十公野公園荒町線」の豊町ー荒町間の開通により、外環状道路全通。「新潟広域都市圏」連携協約を締結	10月	豊浦地域コミュニティバス「本田・天王号」・豊浦地域予約型乗合タクシー「中浦・荒橋号」運行開始	
	4月	「暮らしのガイド」発行。認定こども園新発田聖母こども園開園。介護保険サービスの一部が移行し、総合事業がスタート。新発田市消費生活センター設置（市民相談センターと併設）	令和 4年	4月	「道の駅加治川」リニューアルオープン。加治川地域が過疎地域に指定される。「新発田市持続的発展計画」策定
	5月	「新発田市新庁舎開庁・市制施行70周年記念式典」開催	5月	長岡技術科学大学と「包括連携に関する協定」を締結	
	10月	「新発田市地域づくり支援センター」が、ヨリネスしばたとボランティアセンターにオープン	7月	東豊コミュニティ防災センターオープン	
	11月	「知事とのタウンミーティング」開催	10月	新発田市シェアオフィス「キネス天王」オープン	
平成30年	3月	松浦・五十公野・米倉小学校閉校。国保紫雲寺診療所閉院。「新発田市空家等対策計画」策定、新発田市・胎内市・聖籠町定住自立圏共生ビジョンを改定	11月	豊浦保健センターに「ハピネス☆（きらきら）しばた」オープン	
	4月	松浦・五十公野・米倉小学校が統合し、東小学校が開校。認定こども園あいこども園開園。「新発田市ハザードマップ」更新。松浦地区デマンド（予約型）乗合タクシー「まつうら号」実証運行開始	12月	紫雲寺児童館・加治川児童館閉館	
	7月	「新発田市立歴史図書館」オープン。新発田駅前複合施設（イクネスしばた）「10代の居場所カフェ」事業開始	令和 5年	4月	「蔵春閣」オープン、認定こども園キッズ陽だまり園・三の丸こども園・認定こども園めばえこども園・認定こども園パルクids陽だまり園・認定こども園エンジェルkids陽だまり園・にしどのこども園開園
	10月	エンジェルkids陽だまり園開園。「日韓美術交流展」開催。新発田駅前複合施設（イクネスしばた）で来館者が100万人達成	5月	「こども家庭センター」オープン	
			5月	「児童運動センター（ユウネスしばた）」オープン	
			6月	新発田市教育支援センター車野校開校	
			9月	㈱ウオロクホールディングスと「包括連携に関する協定」を締結	
			令和 6年	3月	イオン(株)と「地域貢献連携協定」を締結。五十公野保育園閉園。サン・ワークしばたを廃止し、金蘭荘に統合
			4月	認定こども園たから保育園開園。新発田市学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を東豊小学校に導入	
			7月	「新発田市パートナーシップ・ファミリーシップ制度」開始	

市民のくらし

		出生	死亡
			
		1日あたり1.3人 (R5年度488人)	1日あたり4.1人 (R5年度1,509人)
転入	転出	結婚	離婚
			
1日あたり6.4人 (R5年度2,341人)	1日あたり7.0人 (R5年度2,556人)	1日あたり0.7組 (R5年度266組)	1日あたり0.3組 (R5年度115組)
上水道使用量	都市ガス使用量	交通事故発生件数	火災発生件数
			
1日あたり1万9,783 ^m ₃ (R5年度724万581 ^m ₃) ※一般家庭用	1日平均2万7,395 ^m ₃ (R5年)※一般家庭用 資料提供 新発田ガス(株)	1日あたり0.24件 (R5年 89件)	1か月あたり1.25件 (R5年 15件)
し尿収集量	家庭ごみ収集量	個人市民税	医院・病院数
			
1日あたり23.2kℓ (R5年度 8,496kℓ)	1日あたり51.5 t (R5年度 18,793 t)	1人あたり4万4,802円 (R5年度)	市民1,114人に対し 1施設(R5.3.31 現在) ※歯科除く